

CHIDORI
No.115

松江市立図書館報

編集・発行／松江市立中央図書館
〒690-0017 松江市西津田六丁目5-44

☎ (0852) 27-3220

2024年 9 月発行

<https://www.lib-citymatsue.jp/>
E-mail: chuou@lib-citymatsue.jp



内 容

表 紙 熊本時代の小泉八雲

見開き 全国KWAIDANマップ

裏表紙 郷土の葉 松江市名誉市民シリーズ「土谷 連之助 氏」
八雲が紹介した松江の七ふしぎ

KWAIDAN
120
小泉八雲『怪談』出版120年





こいずみやくも
小泉八雲 (ラフカディオ・ハーン)
 かいだん しゅっぱん しゅうねん きねん
【怪談】出版 120 周年記念

【怪談】基本データ
 明治37年(1904)4月出版、来日第10作目の作品。
 第1部の「怪談」には14篇の再話物語と3篇の随筆(エッセイ)が、
 第2部には「虫の研究」が収められている。

KWAIDAN マップ

それぞれの怪談の「こわい度」を図書館員が勝手に決定！読むときの参考にしてください(★が多いほどこわい！)

13 「耳なし芳一のはなし」 下関(山口)
 むかし、阿弥陀寺というお寺に芳一という名前の目の見えない若者が住んでいました。
 芳一は琵琶という楽器を弾きながら「平家物語」という話を語るのがとても上手でした。
 あるむし暑い夏の夜、芳一がお寺でひとり留守番していると「芳一！」と呼ぶ声が。
 声の主は「自分の主が芳一の琵琶を聞きたがっている」と言い、手を取り連れていかれた先には…。

こわい度 ★★★★★

12 「うば桜」 伊予の国(愛媛)
 200年以上、毎年2月16日に花を咲かせる桜があります。人々が「うば桜」と呼ぶその桜の由来とは…。

こわい度 ★

11 「十六桜」 伊予の国(愛媛)
 旧暦の正月16日の1日だけ花を咲かせる十六桜という不思議な桜がありました。その桜にはある武士の魂が宿っていて…。

こわい度 ★

10 「葬られた秘密」 丹波の国(京都・兵庫)
 ある家で、亡くなった妻の幽霊が現れるようになりました。たんすの前に現れるので、妻の持ち物をすべてお寺に納めてみましたが、それでも毎晩現れます。
 助けを求められた和尚が、よくたんすを調べてみると…？

こわい度 ★★

9 「安芸之介の夢」 大和の国(奈良)
 むかし、安芸之介という武士がいました。友人と談笑している途中で、強い眠気に襲われて眠った安芸之介は夢を見ます。「常世の国」の姫へ婿入りして、23年の月日を過ごすのですが…。

こわい度 ★★

「怪談」は、小さい頃から昔話や伝説が好きだった妻セツの語りを元に作られました。タイトルの「KWAIDAN」はセツの出雲弁訛りの「くわいだん」からきています。

7 「お貞のはなし」 越後の国(新潟)
 むかし長尾という男がいました。彼には幼馴染のお貞という結婚を約束している人がいました。が結婚をする前に病気のため死んでしまいました。「かならずこの世でもう一度会えます」と言い残して…。長い年月がたった頃、長尾の前に現れたのは…？

こわい度 ★★

8 「青柳ものがたり」 能登の国(石川)
 1人の若侍が、山里で出会った青柳という美しい娘を妻にし、京へ連れて行きました。様々な困難を乗り越え、幸せな結婚生活を送る中、ある日青柳が倒れてしまいます。苦しむ青柳は、自分は人間ではないと告げ…。

こわい度 ★★

13 「耳なし芳一のはなし」 下関(山口)
 むかし、阿弥陀寺というお寺に芳一という名前の目の見えない若者が住んでいました。芳一は琵琶という楽器を弾きながら「平家物語」という話を語るのがとても上手でした。あるむし暑い夏の夜、芳一がお寺でひとり留守番していると「芳一！」と呼ぶ声が。声の主は「自分の主が芳一の琵琶を聞きたがっている」と言い、手を取り連れていかれた先には…。

こわい度 ★★★★★

6 「食人泉」 美濃の国(岐阜)
 ある僧が旅の途中、山奥で迷ってしまいました。日の入り間近の頃、荒れ果てた庵室を見つけたので、そこに住む年老いた僧に泊らせてほしいとお願いしましたが、そっけない態度で断られてしまいました。その代わりに、と教えてもらった近くの村には奇妙な掟があり…。

こわい度 ★★★★★

1 「おしどり」 陸奥の国(福島・秋田)
 尊充という獵師がいました。尊充は狩りの帰りに、つがいのおしどりを見つけます。おしどりを殺すのは良くないのですが、空腹だった尊充は二羽に矢を放ち、オスを射抜きます。仕留めたオスを食べた尊充は、その夜悲しい夢を見て…。

こわい度 ★★★★★

2 「雪女」 武蔵の国(調布村(東京))
 茂作と巳之吉という2人の木こりがいました。ある吹雪の夜、家に帰れず山小屋で寝ていた時のこと。巳之吉は茂作に白い息を吹きかけて命を奪う雪女に出会いました。雪女に「今夜おまえが見たことは、誰にも言ってはいけないよ」と言われた巳之吉は…。

こわい度 ★★★★★

3 「むじな」 紀伊国坂(東京)
 むかし、東京の赤坂にある紀伊国坂は、夜になると皆が遠回りしていく大変さみしいところでした。それはこのあたりに「むじな」がよく出るためです…。

こわい度 ★★★★★

「かけひき」 地域不明
 ある屋敷で罪人を処刑することになりました。処刑される男は「私を殺せば呪ってやる」と言ってきたので屋敷の主人は「もし呪うなら首を切り落とされた後、目の前の石に噛みついてみせろ」と言いました。罪人は約束通り首だけの状態で石に噛みつき…。呪いにおびえる家来たちに知らされる真実とは？

こわい度 ★★★★★

5 「鏡と鐘」 遠江の国(静岡)
 800年前、無間山の寺で大きな鐘を作ることになり、材料として古い青銅の鏡の寄付を呼びかけました。しかしその中にいくら燃やしても融けない鏡があり…。

こわい度 ★★★★★

随筆「カバカ」
 力という男の子がいました。力は成長しても2歳の子どものように遊んでいたため、まわりの人たちは「カバカ」と呼んでいました。力が病気で死んでから3ヵ月後、ある屋敷で生まれた男の子の左手には、「カバカ」の文字があり…。

こわい度 ★★

随筆「ひまわり」
 ある日、高田馬場で一輪のひまわりを見た八雲は、急に40年前の記憶がよみがえりました。それは幼いころに友人のロバートと一緒に聞いた、ある豎琴弾きの歌で…。

こわい度 ★★

4 「3く3首」 甲斐の国(山梨)
 もとは有名な武士だった回竜という僧が旅をしていました。夜、山奥で木の根を枕に寝ていると、親切な木こりが心配して一晩泊めてくれることになりました。夜中、回竜が水を飲むため外に出ると、木こり一家の首がない体が…！！

こわい度 ★★★★★

随筆「虫の研究」
 八雲は虫に関心があり、いくつか関連する随筆を残しています。「怪談」に入っているのは、「蝶」「蚊」「蟻」の3編です。実はこの中に、『怪談』の他の話の中に登場する虫が…？

こわい度 ★

随筆「蓬菜」
 心が老いることなく、誰もがお互い助け信じ合い、盗みもない蓬菜という国がありました。しかし西の国から悪い風が吹いてきて…。蓬菜とはどこなのか。八雲が伝えたかったことは…。

こわい度 ★



参考資料
 「小泉八雲の怪談づくし」小泉凡／監修・解説 「小泉八雲・松江」松江観光協会／編
 「へるん先生 こんには」小泉凡／監修 「小泉八雲 一放浪するゴースト」池田雅之／監修
 「小泉八雲事典」平川 祐弘／監修 「日本書紀上・下」小泉 八雲／著
 「松江の七ふしぎ」小泉八雲／著
 編集協力・画像提供／小泉八雲記念館



知っておきたい

松江市名誉市民



名誉市民章

松江市では、市民又は本市において縁故の深い方で、公共の福祉の増進や文化の進展に寄与した方を「松江市名誉市民」とし、その功績を称えています。現在24名の方にこの称号が贈られています。シリーズで1名ずつ紹介していきます。郷土の誇りとして、いつまでも私たちの心に刻んでいきたいですね。

第15回 土谷 連之助 氏 【1879~1970】(昭和33年5月3日 顕彰)



写真：『松江市勢要覧』より

大原郡大東町(現雲南市)に生まれ、松江市の土谷家の養子となり連之助を襲名した。大正14年から昭和17年まで松江市議、大正15年から昭和17年までは島根県会議員もつとめた。2度にわたり市議会議員(昭和4年~同12年・同14年~同17年)を、県議会では副議長(昭和13年~同17年)を歴任した。在任中は市長を助け、片倉工業株式会社松江製糸所(昭和3年3月、松江片倉製糸株式会社が東朝日町に設立され操業、同15年、片倉工業と合併し社名を片倉工業松江製糸所と改める)の誘致に成功した。また松江港の修築(昭和3年8月着工し同7年1月完工)、その他にも市営バス(昭和4年4月から営業開始)や市営ガス事業(向島町に工場を建設、昭和5年4月事業開始)の実現に尽力し地方産業の振興に貢献した。

八雲が紹介した 松江の七ふしぎ

「小豆とぎ橋」

普門院の側にある「小豆とぎ橋」の近くでは「杜若のうた」を歌ってはいけないと言われていました。ある日、怖いもの知らずの侍が大声で歌ってみると…。

「あめを買う女」

中原町にある小さなあめ屋に毎晩水あめを買いに来る女がいました。その女があまりにもやせて青白い顔だったので心配した主人が後を付けていくと、そこは大雄寺の墓地で…。

ほかにも…

- 「源助柱」 松江大橋にあらわれる赤い鬼火の正体とは？
- 「嫁が鳥」 ある夜、突然浮かび上がった島には美しい女の亡骸が…。
- 「お城山のきつね」 松平直政の前に現れたふしぎな少年からのお告げとは。
- 「松江城の人柱」 おどりが好きな少女が人柱としてお城に生き埋めにされてから…。
- 「子どもの幽霊」 加賀の潜戸にある積み上げた石の塔を倒すと子どもの幽霊が…。

※出典『知られぬ日本の面影』

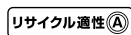
「子どもの幽霊」のみ『潜戸』から、それ以外の話はすべて『神々の国の首都』から紹介しました



イラスト / 小泉八雲
『妖魔詩話』より

島根図書館 | 松江市島根町加賀1414番地 (島根公民館併設)
TEL (0852) 85-9088 E-mail: shimane@lib-citymatsue.jp

東出雲図書館 | 松江市東出雲町揖屋1216-1 (東出雲複合施設ヨリアイーナ東出雲内)
TEL (0852) 52-3297 E-mail: higashiizumo@lib-citymatsue.jp



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



印刷：(有)黒潮社